

	<h1 style="text-align: center;">進取の気概</h1> <p style="text-align: center;">(校長室だより)</p>	<p style="text-align: center;">有田市立箕島中学校</p> <p style="text-align: center;">自主 友愛 剛健</p>	<p style="text-align: center;">R4・4・28</p> <p style="text-align: center;">No. 5</p>
---	--	--	---

4月29日から5月5日の祝祭日が連続する期間を日本では「ゴールデンウィーク」と呼んでいます。4月29日は「昭和の日」で、昭和の時代は天皇誕生日でした。今は昭和という激動と復興の時代と、国の将来に思いをいたす(じっくり考える)ための日となっています。5月3日は「憲法記念日」で現在の日本国憲法が施行された日、4日は「みどりの日」で自然に親しむ日、5日は、子どもたちの人格を尊重し、成長を祝う「こどもの日」とつながり、休日が連続します。



日本が第二次世界大戦に負けて、昭和22年(1947年)に、日本国憲法が施行(効力を発生させること)されたとき、当時の文部省(現在の文部科学省)は「あたらしい憲法のはなし」という冊子をつくって、子どもたちに配りました。その中の「六 戦争の放棄」の部分を紹介します。

六 戦争の放棄

みなさんの中には、こんどの戦争に、おとうさんやにいさんを送りだされた人も多いでしょう。ごぶじにおかえりになったでしょうか。それともとうとうおかえりにならなかったでしょうか。また、くうしゅうで、家やうちの人を、なくされた人も多いでしょう。いまやと戦争はおわりました。二度とこんなおそろしい、かなしい思いをしたくないと思いませんか。こんな戦争をして、日本の国はどんな利益があったでしょうか。何もありません。ただ、おそろしい、かなしいことが、たくさんおこただけではありませんか。戦争は人間をほろぼすことです。世の中のよいものをこわすことです。だから、こんどの戦争をしかけた国には、大きな責任があるといわなければなりません。このまえの世界戦争のあとでも、もう戦争は二度とやるまいと、多くの国々ではいろいろ考えましたが、またこんな大戦争をおこしてしまったのは、まことに残念なことではありませんか。

そこでこんどの憲法では、日本の国が、けっして二度と戦争をしないように、二つのことをきめました。その一つは、兵隊も軍艦も飛行機も、およそ戦争をするためのものは、いっさいもたないということです。これからさき日本には、陸軍も海軍も空軍もないのです。これを戦力の放棄といいます。「放棄」とは「すててしまう」ということです。しかしみなさんは、けっして心ぼそく思うことはありません。日本は正しいことを、ほかの国よりさきに行ったのです。世の中に、正しいことぐらい強いものはありません。

もう一つは、よその国と争いごとがおこったとき、けっして戦争によって、相手をまかして、じぶんのいいぶんをとおそうとしないということをきめたのです。おだやかにそうだんをして、きまりをつけようというのです。なぜならば、いくさをしかけることは、けっきょく、じぶんの国をほろぼすようなはめになるからです。また、戦争とまでゆかずとも、国の力で、相手をおどすようなことは、いっさいしないことにきめたのです。これを戦争の放棄というのです。そうしてよその国となかよくして、世界中の国が、よい友だちになってくれるようにすれば、日本の国は、さかえてゆけるのです。

上の**太字**の部分をもう一度、読んでみましょう。固い決心のもとに憲法がつくられたことが分かります。みなさんは、このゴールデンウィークをどのように過ごしますか。いずれにせよ、祝祭日に込められた意味をもう一度考え、休日の時間を大切に過ごしましょう。